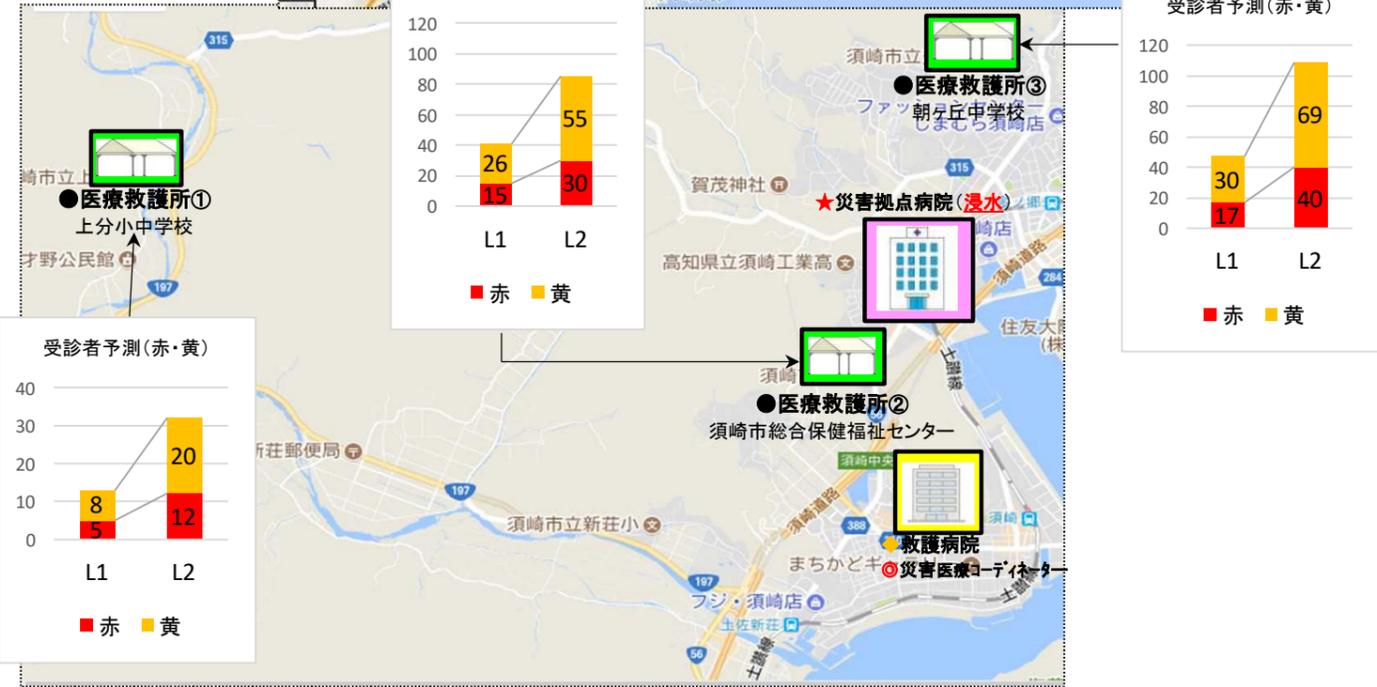


南海トラフ地震時医療救護活動体制の目指す姿【須崎市】

★目指す姿

- ◇市内の医療機関の大半が津波浸水想定区域内にあり、前方展開に欠かせない医療救護所等を設置する場所を確保し、助かった命をつなぐことのできる医療救護体制
- ◇災害拠点病院の高台移転による地域完結型の医療救護体制
- ◇隣接の市町（土佐市、佐川町、津野町、梶原町）と負傷者や避難住民の移動等を踏まえた広域的な医療救護体制



■ 医療救護施設における受診者予測(負傷者:発災後3日間)における設定条件

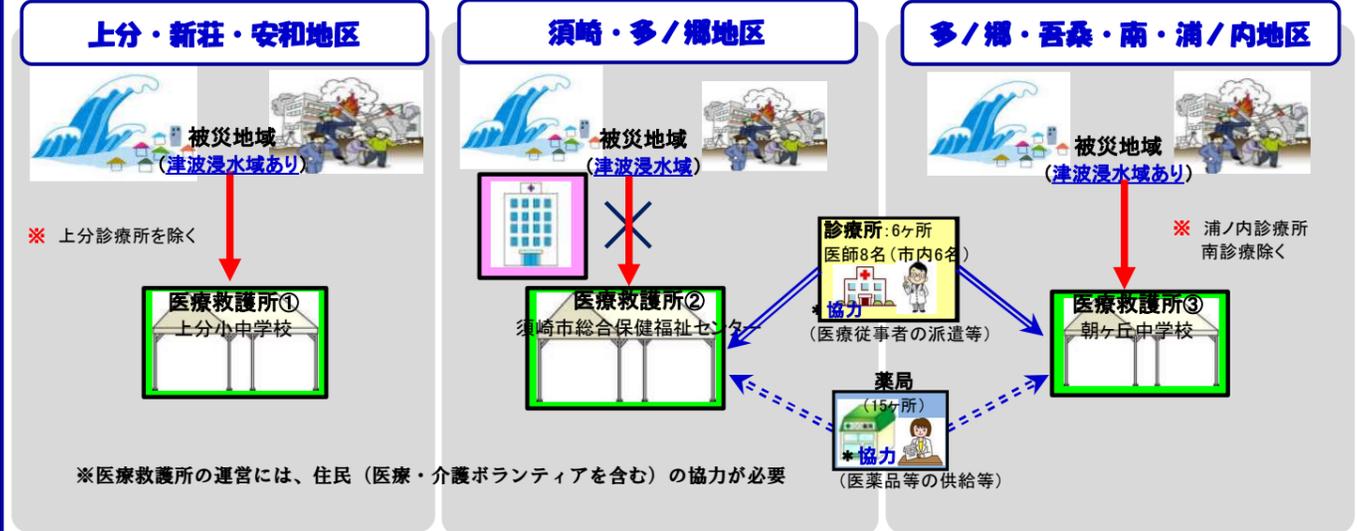
- ①負傷者数はH30年度医療政策課「医療従事者搬送計画」(L1)(L2)データ使用
 - ②発災後3日間に、トリアージ区分「赤」80%、「黄」70%、「緑」60%が受診すると仮定
 - ③東日本大震災における石巻赤十字病院の受診者数推移をモデルとして算出
- ※急性疾患患者(救急患者)や慢性疾患患者(要医薬品)は含まれていない点に留意

【負傷者想定】

	L1			L2		
	赤	黄	計	赤	黄	計
上分・新荘・安和地区	6	11	17	15	29	44
須崎・多ノ郷地区	19	37	56	38	78	116
多ノ郷・吾桑・南・浦ノ内地区	21	43	64	50	99	149
計	46	91	137	103	206	309

☆特徴

- ・医療施設の大半が津波浸水想定区域内
- ・須崎・多ノ郷の医療救護所の設置場所は、周囲が全て浸水し孤立する可能性あり
- ・災害拠点病院は、長期浸水し医療救護活動が行えない恐れあり



須崎市 L2想定地域ごとの医療救護行動計画

L2発生時における医療救護体制強化の4本柱の拡充

1. 負傷者情報の正確な把握(受援体制の確立・情報伝達)
2. 医療機関との連携強化(研修・訓練・協力)
3. 住民参加型の強化(軽症者の対応・啓発活動)
4. 負傷者受入場所確保(避難所医療救護班)



* 各種数値(病床数、医師数、薬局数等)は、R1年度
* 診療所の数については、便宜的に2か所管理等を行っているものを除外(概ね、週5日以上診療)